

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	キャリア・リソース・ラボ					
ラボ代表者	氏名	武藤 佳恭	所属	環境情報学部		
ラボ設置期間	2001年8月1日		～	2020年3月31日	18	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
武藤 佳恭	環境情報学部 教授	キャリア・リソース・ラボ代表。オンライン アセスメントメカニズムの開発
清木 康	環境情報学部 教授	キャリア開発に関するデータベース構築
飯盛 義盛	総合政策学部 教授	地域におけるキャリア支援と職業教育の連動の枠組み作り
高橋 俊介	政策・メディア研究科 特任教授	自律型キャリア開発の調査・研究・啓蒙活動
伊藤 良二	政策・メディア研究科 特任教授	新企業内教育、コーポレートガバナンス/CSRとキャリアの研究
須藤 実和	政策・メディア研究科 特任教授	次世代経営者教育ならびに未来組織の経営システムの役割に関する研究
野口 海	政策・メディア研究科 特任准教授	新EAPの開発、組織のメンタルヘルスへの対応についての研究
櫻田 周三	政策・メディア研究科 特任講師	新しい社会参加活動づくり、個人の意識改革研究
小山 健太	政策・メディア研究科 研究員	キャリア自律支援者の育成に関する研究と若手社員のリアリティショックの研究
宮地 夕紀子	SFC研究所 上席所員	キャリア自律プログラムの導入、キャリアアドバイザーの研究
吉澤 康代	SFC研究所 上席所員	新しい働き方とダイバーシティマネジメントの視点からみたキャリア開発の研究
堀内 泰利	SFC研究所 上席所員	キャリア自律を実現する組織の仕組み・風土・研修の開発
村上 恭一	SFC研究所 上席所員	新企業内教育、コーポレートガバナンス/CSRとキャリアの研究
小杉 俊哉	SFC研究所 上席所員	自律型キャリア開発の調査・研究・啓蒙活動
大木 紀子	SFC研究所 上席所員	自律型キャリア開発、キャリアアドバイザーの育成活用研究
伴 英美子	SFC研究所 上席所員	介護・看護スタッフのキャリア開発、キャリアアドバイザーの育成活用研究
長沢 恵美	SFC研究所 上席所員	キャリア・ラボ研究プロジェクトにおけるデータベースの作成と、それを基にした一次集計とその分析
永石 尚子	SFC研究所 上席所員	現場における業務の改善・工夫を通じたプログラム開発
稲垣 久美子	SFC研究所 上席所員	大学におけるキャリア教育の有効性の研究
山田 昇	SFC研究所 所員	キャリアアドバイザーの活動開発と支援
堀内 慎一郎	政策・メディア研究科 後期博士課程	海外経験をもとにしたキャリア開発
奥田 美都子	政策・メディア研究科 後期博士課程	日本におけるデュアルシステムの開発
正村 あづさ (勝又あずさ)	政策・メディア研究科 後期博士課程	キャリア教育における「けいさく」型キャリア開発の研究
花田 光世	慶應義塾大学名誉教授	キャリアアドバイザーの育成・組織内位置づけの研究、自律型キャリア開発の調査・研究・啓蒙活動

年次活動実績報告

研究活動報告（設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）

キャリア・リソース・ラボでは日本におけるキャリア自律研究・実践のパイオニアとしての役割を担い、日本企業に対する活動を継続的に実施してきました。活動の具体的なテーマとしては：

- ①□キャリア自律のコンセプト提供
 - ②□それを実践するキャリア自律研修プログラムの提供と実践
 - ③□キャリア自律の実践に伴う現場マネージャーの役割変化に対応するマネージャー教育とコーチングの提供
 - ④□キャリア自律を志向する従業員とそれに向き合うマネージャーを支援するキャリアアドバイザーの育成
 - ⑤□キャリアアドバイザーが活動するインフラ組織としてのコーポレートユニバーシティ/ライフキャリアサポートセンターの研究と運営指導
 - ⑥□キャリア自律活動を組織内で進展させる組織風土の研究と構築支援
- といった活動です。

2016年にキャリア自律プログラムの提供が職業能力開発促進法の改正で企業に努力義務化され、キャリアコンサルタントの資格が法制化され、キャリアコンサルタントの活動がキャリアカウンセリングから、一人ひとりの多様な社員のキャリア構築支援、付加価値向上型の働き方支援を行うよう、2018年度からキャリアコンサルタントの能力要件の変化・拡大が指針化されるに伴い、上記活動に新たな視点が付加されてきています。

キャリア・リソース・ラボはこのような新たな変化、それに対する新たな活動の提供を求められる中、研究テーマとして、①働き方改革とキャリア自律の統合、②キャリア支援活動と人事活動の協業、③キャリア支援者の新たな役割の学びと実践の場の提供を目指した各種プログラムの開発を活動テーマに加えて、2019年度の活動を行いました。

キャリア・リソース・ラボの特長はこのよう一連の活動を常に企業と共同で研究を実施し、プログラムを開発し、そのプログラムの改良を一貫して行っていることです。2019年度もこの一連の活動を三谷産業株式会社、サントリー社などの企業で実践的し、新たな活動プログラムの開発と改良を行いました。日本のキャリア自律運動、その活動を支援するキャリアアドバイザーの育成と実践の場を通じた研鑽の機会の提供、企業とタイアップしたキャリア支援プログラムの開発とその改良においては、日本の研究機関やキャリア支援組織の先頭に立ち、活動を実践してきましたが、今後もこの実践型研究開発とプログラム改良を2019年度も継続的に実施しました。

特に2019年度は2016年以降の一連の法制化に対応するプログラムの開発と実践のため

- ① キャリア支援者の活動実態に見合った「スーパービジョン」の開発と提供
- ② キャリア支援者の研鑽の場としてのインターンシップ型研鑽機会の提供
- ③ キャリアリソース版「セルフキャリアドック」の開発と提供
- ④ キャリア支援組織と人事組織の協業プログラムの開発
- ⑤ キャリア支援と健康経営の協業プログラムの開発
- ⑥ キャリア支援者のプロフェッショナル活動としての自律と深化を促す各種プログラムの開発
- ⑦ 企業に対する(1)キャリア支援導入プログラム、(2)運用プログラム、(3)テキスト・ワークブックの開発

と提供を行いキャリア支援の領域における新たな活動の開拓と具体的なプログラムの構築を目指し、法制化に伴う、活動の体系化、深化を行う予定をたてました。この予定に沿い、①、②では厚生労働省が認定しているキャリアコンサルタントに対する、新たなスーパービジョンの認定と、実践力のあるキャリアコンサルタント育成制度の基本案を花田が作成しましたが、この基本案のパイロット研究として、キャリアリソースラボ所属のキャリアアドバイザーに対して新スーパービジョンの実施と、キャリアコンサルタントの実践力強化のプログラムを実施しました。具体的には2019年度6回（第6回はコロナウイルス感染予防のため延期予定）のスーパービジョンを実施し、その成果をキャリアコンサルティング協議会が実施している厚生労働省委託事業の「キャリアコンサルタントの実践力強化に関する調査研究事業報告書」に反映させました。③、④、⑤のキャリア支援組織と人事組織の新たな関係構築を図るプログラムでは、15社が参加するキャリアリソースラボ主催の研究会において多面的に研究を重ね、2020年度も継続的に研究を実践する予定です。この研究会の研究を通して、ベネッセコーポレーション、PHCホールディングス、旭化成、ソフトバンク、博報堂の各社において、実践に向けた準備を開始する段階に至っています。⑥、⑦のキャリアリソースラボによる新プログラム開発では、従業員規模300人未満の小規模・零細企業に対するキャリア支援プログラムの開発を行い、テキストブック、運用マニュアル、実践セルフワークブックから成るパッケージを開発しました。2020年度はこのパッケージを小規模企業10社において、テスト的に実践し、2021年度より積極的な支援活動を開始する予定です。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

【著作物】

- ・イノベーションするAI（武藤佳恭・宇田川誠（著）/春秋社/2019）
- ・open source machine learning in medicine (Yoshiyasu Takefuji/Independently published/2019)
- ・用AVR微電腦與Python開始做IoT裝置的設計與實裝（武藤 佳恭/馥林（TW）/2019）
- ・物聯網應用設計與實戰：基於AVR單片機和Python（武藤 佳恭/機械工業出版社/2019）
- ・Mechanisms of Cross-Boundary Learning: Communities of Practice and Job Crafting. (Koyama, K. (2019). Job Crafting. in Nobutaka Ishiyama, Yoshinobu Nakanishi, Kenta Koyama, Hiroshi Takeshita (Eds.). Cambridge Scholars Publishing. pp.23-31.)
- ・Boundary-crossing experience and job crafting from the perspective of job characteristic theory. in Nobutaka Ishiyama, Yoshinobu Nakanishi, Kenta Koyama, Hiroshi Takeshita (Eds.). Mechanisms of Cross-Boundary Learning: Communities of Practice and Job Crafting. Cambridge Scholars Publishing. pp.121-130.
- ・『人材育成ハンドブック』編集：人材育成学会、金子書房、2019年4月
「360度フィードバックとは」（花田光世、小山健太）
「グローバル教育（英語教育・外国籍社員の国内キャリア）」（小山健太）
「キャリア自律」人材育成学会（小山健太）
「女性社員のキャリア開発」（吉澤康代）
- ・キャリアコンサルタントの実践力強化に関する調査研究事業報告書
（キャリアコンサルティング協議会・花田光世。2020年3月、補章）（花田光世編著）
- ・キャリアコンサルタントその理論と実務（一般社団法人日本産業カウンセラー協会。2020年3月、第二章）（花田光世）

【論文等】

- ・B. Spasova, D. Kawamoto, Y. Takefuji, "A Study of Fuel cell scheduling effect on local energy markets with heterogenous renewable sources," Energies 2019, 12, 854
- ・Y. Takefuji, "FDA needs the dramatic reform," Science (eLetter, 18 May 2019)
- ・Y. Takefuji, "There is no boundary between basic and applied science," Science (eLetter, 23 June 2019)
- ・Y. Takefuji, "The long-term vision is required in the historic turning point like Brexit," Science (eLetter, 5 Oct. 2019)
- ・Y. Takefuji, "A new global warming policy is needed," Science (eLetter, 11 Oct. 2019)
- ・Y. Takefuji, "Balancing the duality should be considered in evidence-based conclusion," Science (eLetter, 16 Jan. 2020)
- ・Y. Takefuji, "A cleaner/greener technology does not mean healthy to humans and nature," Science (eLetter, 23 Jan. 2020)
- ・Y. Takefuji, "What business organizations should do in the age of AI?," forum21, 2020

【寄稿】

- ・小山健太「留学生採用と入社後のセルフ・キャリアドック」就職みらい研究所ウェブサイト、2019年10月2日

【学会発表】

- ・小山健太「高度外国人材の組織社会化とインクルージョン」産業・組織心理学会第35回大会、2019年8月31日
- ・吉澤康代、宮地夕紀子、竹内雅彦「ワークモチベーション向上要因と同低下要因のプロセス統合：A社50代前半社員に対するヒアリング調査からの考察」産業・組織心理学会第35回大会、2019年9月1日

【活動その他】

- ・慶應学術事業会との共催による各講座の運営・実施
◇組織・人材プロフェッショナル養成講座 2019年4月～8月 慶應丸の内シティキャンパス
◇キャリア・アドバイザー養成講座〔アドバンスコース〕2019年5月～9月 慶應丸の内シティキャンパス
◇企業参謀養成講座 2019年5月～10月 慶應丸の内シティキャンパス
◇キャリア・アドバイザー養成講座 2019年10月～2020年3月 慶應丸の内シティキャンパス
◇事業革新家養成講座 2019年10月～2020年2月 慶應丸の内シティキャンパス
- ・キャリア・アドバイザー〔プロフェッショナル〕／コーディネーター：花田光世
第15期 CRL登録キャリア・アドバイザー スーパービジョン
講義・事例検討を中心に年6回、土曜日開催。（なお、第6回分はコロナウイルス感染予防対策として延期予定）
- ・キャリア・ラボ研究会（CRL研究会）／コーディネーター：花田光世
2002年度より継続して18期目の開催。15社の企業の人事・教育担当の方々を中心とした参加者による月1回（全9回）の研究会を開催。

他、受託研究業務における研究活動

会計報告	※ 収入（研究種目（委託、コンソ等）・件数・合計金額等）、支出、繰越金額などを記載してください。
------	--

【収入報告】

研究種目	契約件数	研究費総額	備考
受託研究	7 件	25,316,230 円	
コンソーシアム	0 件	0 円	
指定寄付金	0 件	0 円	
その他(ラボ会費など)	117 件	6,808,500 円	
前年度繰越金		15,981,698 円	
合計	124 件	48,106,428 円	

【支出報告】

費目	金額(円)	備考
人件費(謝金、給与等)	15,089,904 円	
物品費	2,214,980 円	
旅費	241,200 円	
委託費	8,025,443 円	
会合費	332,044 円	
その他	5,097,330 円	
合計	31,000,901 円	

【収支計】

合計	17,105,527 円
----	--------------